



東京支部学生会 学生会報 第23号
Student Journal 2018

特 集

『学生員の就職活動』

一般社団法人 電子情報通信学会
東京支部学生会



電子情報通信学会

東京支部学生会

新規メンバーを募集しています

学生会の目的

電子情報通信学会学生員の活動を盛んにし
かつ学生員相互の親睦を盛んにすることを目的に活動しています

学生会の活動

研究発表会の運営
見学会・講演会の企画実施
他支部との交流
学生会報作成

IEICE東京支部学生会について



@ieice_Tokyo_st



参加申込み・問合せ先

電子情報通信学会 東京支部事務局

shibu@tokyo.ieice.org

03-3433-6691

申込みの際は、下記の項目をお書きください

- タイトルに「東京支部学生会参加申込み」
- 参加人数, お名前
- 所属大学, 学科学部, 学年

電子情報通信学会 東京支部学生会 学生会報 第 23 号 目次

平成 29 年度東京支部運営委員・学生会運営委員・学生会顧問一覧	... 3
幹事校代表挨拶（巻頭文）	
服部 元磨（拓殖大）	... 5
幹事団顧問の挨拶	
常光 康弘（拓殖大）	... 6
特集①：平成 29 年度東京支部学生会事業紹介	... 7
幹事団	
杉田 幸一（拓殖大）	... 8
学生会報	
佐久間 義友（横浜国大）	... 9
見学会	
奥田 和也（防衛大）	... 10
講演会	
小坂 達也（明大）	... 11
研究発表会	
石田 勝晃（上智大）	... 12
S C I	
大前 寛尚（東海大）	... 13
特集②：学生就職活動記	... 15
学会への勧誘記事	... 20
編集後記	... 22

平成 29 年度東京支部運営委員

(敬称略・順不同)

支部長	伊丹 誠	東京理科大	委員	大澤 新吾	群馬大
次期支部長	山田 昭雄	日本電気	委員	常光 康弘	拓殖大
庶務幹事	有吉 正行	日本電気	委員	安達 宏一	電通大
庶務幹事	長谷川幹雄	東京理科大	委員	江村 暁	日本電信電話
会計幹事	中山 正敏	三菱電機	委員	中澤 仁	慶大
会計幹事	寺田 純	日本電信電話	委員	中野 雅之	KDDI総合研究所
委員	池田奈美子	日本電信電話	委員	林 秀樹	日立
委員	臼井 健	KDDI総合研究所	委員	渡邊 啓	日本電信電話
委員	大野 光平	明大	委員	岡田信一郎	茨城大
委員	木村 雄一	埼玉大	委員	大川 猛	宇都宮大
委員	末田 欣子	日本電信電話	委員	丹沢 勉	山梨大
委員	高橋 健志	情報通信研究機構	委員	柴崎 年彦	都立産技高専
委員	岩科 滋	NTTドコモ			

以上 25 名

平成 29 年度東京支部学生会運営委員

(敬称略・順不同)

委員長	服部 元磨	拓殖大	委員	戸泉 孝太	日大	委員	竹内 佳敬	千葉工大
副委員長	松村 太郎	都立産技高専	委員	上田 拓矢	日大	委員	大塚 慶司	千葉工大
書記	大澤 千尋	都立産技高専	委員	上村 凌平	日大	委員	木部 修斗	千葉工大
委員長補佐	平田 菖真	拓殖大	委員	種田 亮太	日大	委員	石田 勝晃	上智大
委員	上田 健斗	拓殖大	委員	田中 和幸	日大	委員	杉山 滉一	上智大
委員	杉田 幸一	拓殖大	委員	呉 迪	日大	委員	永田 雄大	千葉大
委員	樋熊 康裕	拓殖大	委員	大西 峻平	日大	委員	伊熊真太郎	千葉大
委員	島田 浩之	拓殖大	委員	谷口 宜明	日大	委員	小澤 祐太	千葉大
委員	後藤 敦	拓殖大	委員	遠藤 源博	日大	委員	白木 智之	明大
委員	木村 優作	拓殖大	委員	佐久間義友	横浜国大	委員	傳田 渉	明大
委員	細井 宏樹	拓殖大	委員	野井 優希	横浜国大	委員	鹿嶋 亮佑	明大
委員	福岡 政大	都立産技高専	委員	大西 輝	横浜国大	委員	古屋 翔大	明大
委員	秋山 祐也	都立産技高専	委員	真鍋 敦	群馬大	委員	石井 君季	明大
委員	中野 隼輔	都立産技高専	委員	千装 尊仁	群馬大	委員	長田謙志郎	明大
委員	倉持 春聖	東京工科大	委員	後藤 和正	防衛大	委員	小坂 達也	明大
委員	大前 寛尚	東海大	委員	奥田 和也	防衛大	委員	志塚 雅明	明大
委員	大山 昇平	東海大	委員	福田翔太郎	防衛大	委員	永野 智彦	東京都市大
委員	木田 行彦	東海大	委員	大山 小鉄	防衛大	委員	小田中 啓	東京都市大
委員	平本 和之	東海大	委員	山岡 雪乃	早稲田大	委員	中村 啓太	東京都市大
委員	チョン ホーリャン	東海大	委員	萩原 涼太	早稲田大	委員	中村 哲也	東京都市大
委員	千葉 恵	東海大	委員	岡田 雅江	日本女子大	委員	橋本 大	東京都市大
委員	檜原裕一郎	神奈川工科大	委員	會田 詩織	日本女子大	委員	大畑 遼汰	東京都市大
委員	杉山 友記	神奈川工科大	委員	海老慎太郎	千葉工大	委員	松岡 慎治	東京都市大
委員	阿部 水樹	日大	委員	谷川 悠樹	千葉工大			
委員	田中 大介	日大	委員	中島 悟	千葉工大			
委員	田中 泰介	日大	委員	増田 圭亮	千葉工大			
委員	内海 裕人	日大	委員	織田 真博	千葉工大			

以上 77 名

平成 29 年度東京支部学生会顧問

(敬称略・順不同)

顧問	松谷 康之	青学大	顧問	小林 一哉	中大
顧問	横田 浩久	茨城大	顧問	小舘 亮之	津田塾大
顧問	荒川 臣司	茨城高専	顧問	河崎 雅人	帝京科学大
顧問	熊谷 毅	宇都宮大	顧問	松浦 基晴	電通大
顧問	清水 隆志	宇都宮大	顧問	野村 英之	電通大
顧問	平岡 隆晴	神奈川大	顧問	藤井 威生	電通大
顧問	塩川 茂樹	神奈川工科大	顧問	濱本 和彦	東海大
顧問	石坂 雄平	関東学院大	幹事	川原 圭博	東大
顧問	阿部 清彦	東京電機大	顧問	永田 明德	東京工科大
顧問	弓仲 康史	群馬大	顧問	黒川 弘章	東京工科大
顧問	加藤 毅	群馬大	顧問	田中 晶	東京高専
顧問	重野 寛	慶大	顧問	山岸 昌夫	東工大
顧問	田中 敏幸	慶大	顧問	吉野 隆幸	東京電機大
顧問	篠原 克幸	工学院大	顧問	岡野 好伸	東京都市大
顧問	大平 昌敬	埼玉大	顧問	高野 邦彦	都立産技高専
顧問	池口 徹	東京理科大	顧問	柴崎 年彦	都立産技高専
顧問	鯨井 政祐	埼玉工大	顧問	横井 健	都立産技高専
顧問	三好 匠	芝浦工大	顧問	田中 聡久	東京農工大
顧問	武藤 憲司	芝浦工大	顧問	藤沢 匡哉	東京理科大
顧問	相馬 隆郎	首都大	顧問	佐伯 勝敏	日大
顧問	田川 憲男	首都大	顧問	黒岩 孝	日大
顧問	下村 和彦	上智大	顧問	大貫進一郎	日大
顧問	小林 学	湘南工科大	顧問	木許 雅則	日本工大
顧問	花山 英治	職業能力大	顧問	小川 賀代	日本女子大
顧問	杉山 賢二	成蹊大	顧問	亀井 利久	防衛大
顧問	高見 一正	創価大	顧問	李 磊	法政大
幹事	常光 康弘	拓殖大	顧問	井家上哲史	明大
顧問	大竹 敢	玉川大	顧問	村上 隆啓	明大
顧問	佐藤 雅俊	玉川大	顧問	本間 聡	山梨大
顧問	関屋 大雄	千葉大	顧問	田中 良明	早大
顧問	伊與田光宏	千葉工大	顧問	河野 隆二	横浜国大
顧問	鎌倉 浩嗣	千葉工大			

以上 63 名

平成 29 年度学生会報巻頭言

学生会運営委員長

服部 元磨

このたびは、学生会報を手にとりいただき誠にありがとうございます。

電子情報通信学会東京支部学生会は、学生員の活動を盛んにし、かつ学生員相互の親睦を図ることを目的に、電子情報通信学会東京支部の下部組織として平成 7 年度に設立されました。設立して以来、学生会に多くの学生員が参加し、今年度で 22 周年を迎えることができました。上記の東京支部学生会の目的を達成するために、研究発表会、講演会及び、見学会など様々なイベントの開催をしているほか、学生員相互の親睦を深めるために東京支部以外の他支部の学生会組織との連携・就職活動へ向けたセミナーの開催などのイベントも行っています。そして、年々活動と交流の幅は広がりつつあります。

学会は、研究の成果を外部に発信し、議論する場であるとともに、研究者同士の交流を深め、知見を得る場であると思います。学生会では、より良い未来の実現の為に学術の発展を持って貢献するという学会の理念の下、今後の社会を担っていく学生の皆様のお役に立てるよう、研究発表会、講演会及び、見学会など、各種イベント等を開催していきますので、ご活用していただけると幸いです。

本誌は、多くの皆様に支えられ 23 回目の発行となりました。本誌では、東京支部学生会の各事業について紹介しております。そのため、読者の皆様が東京支部学生会の活動に興味を持っていただければ幸いです。最後に日頃から多大なご支援を頂いている電子情報通信学会東京支部の方々、学生会の顧問の先生方、学生会活動にご協力を頂いた関係各位、この学生会報を手にとりいただきご覧になっている方々に心よりお礼を申し上げ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

平成 29 年 1 月吉日

学会という舞台に立つこと，学生会として舞台をつくること

拓殖大学 工学部 電子システム工学科

常光 康弘

東京支部学生会顧問幹事を拝命しております，拓殖大学の常光です．多くの皆様による御協力のお陰で，東京支部学生会の活動は年々益々活発になっております．心より感謝申し上げます．この場を借りて顧問として未来をつくっていく学生の皆様へ御挨拶させていただきます．

研究を発表する舞台としての学会に関わる事になったのは学生の皆様はいつ頃からでしょうか？早ければ学部 4 年生，高専最終年度，博士課程前期あたりから研究成果を学外の専門家に視てもらおう機会に出逢ったかもしれません．学会は研究者同士の情報共有を深めるとともに，研究の道しるべを問われる貴重な場になります．人生のどのタイミングで学会発表という舞台に立つ事になるかは人それぞれですが，舞台に立ったからには公に『研究者』の一人として扱われることになります．それは誇りであり，責任を持つ事であり，まだ見ぬ未来を作り上げていくことに繋がります．

さて、『学会という舞台に立つ』ことを経験する機会に出逢えるという舞台背景には，舞台をつくり上げている数多の人々による学会運営という縁の下の力持ちがいて下さるからです．人は一人では出来ることは小さいかも知れませんが，多くの人が集まると大きな事をする事が出来る力も生まれます．学生会は学生時代という若い時代に『学生会として舞台をつくること』を経験する事が出来る極めて貴重な機会です．学生会に参加する事で多くの同世代学生が集まり，研究発表会，講演会，見学会，会報，交流，広報，とりまとめる運営等の様々な個人では出来ない組織としての力をつくりだす経験を得ることが出来ます．これは社会の縮図です．この経験は必ず将来皆様の役に立つと確信しております．

よく人生を鉄道の線路に例えるお話があります．敷かれた線路は人生において実はめったにお目にかかれませんが，あつたらラッキーだと捉えて先人が汗をかいて敷いた線路を積極的に活用して学んで下さい．ここは研究でいうところの『参考文献』にあたる事でしょう．多岐にわたる線路をくまなく走ってみて下さい．そして力をつけたら今度は貴方がまだない未踏領域に線路を自ら敷いていく番です．研究でいうところの自分自身の研究にあたります．

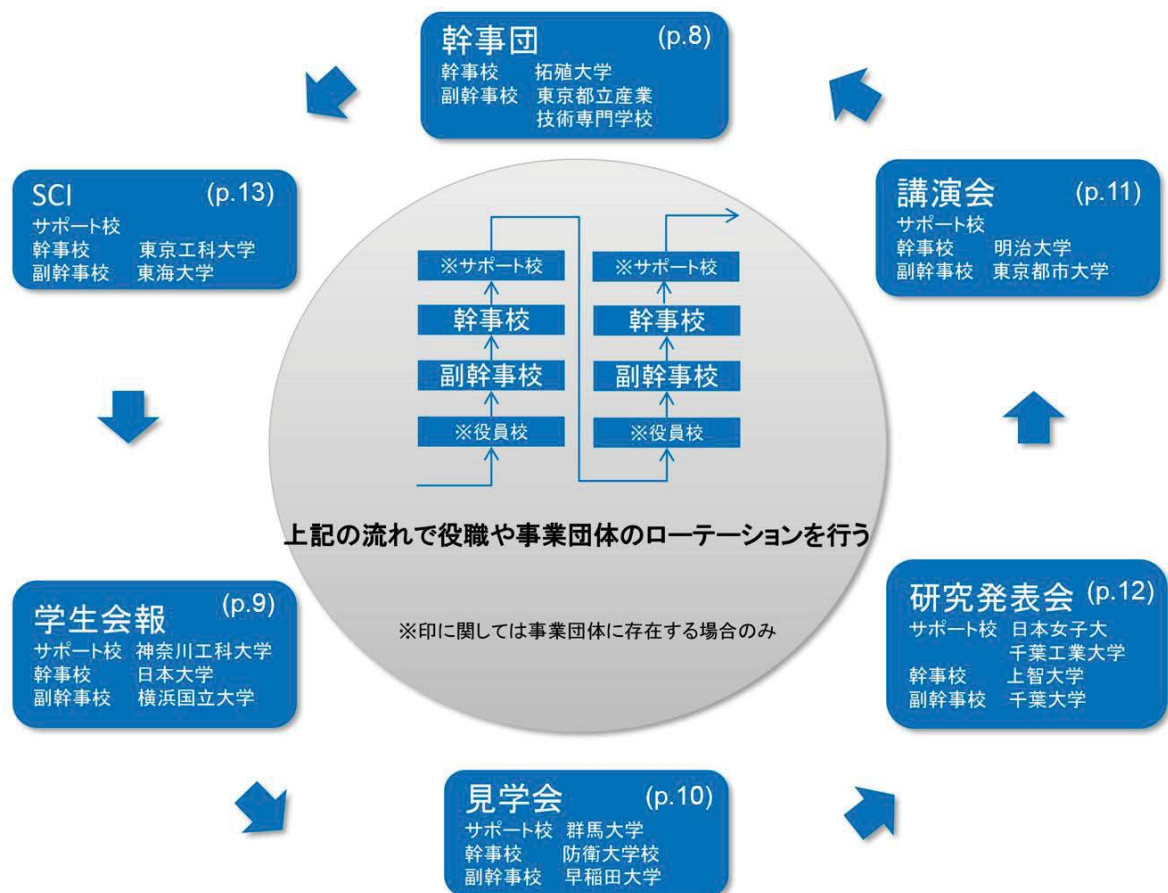
学会は『学び会』舞台です．研究発表を行う際に参考文献ことリファレンスが存在しない発表には幸いにも私は遭遇した事はありません．先人のなした事が必ずあるはずで，研究はまるで絆のように多くの人の叡智で織り紡がれています．『研究』の英語訳は『Research』です．つまり『Re-search』であり，『再び調査する』ことを意味します．多くの人々による力が過去と現在を組紐のように系統立ててつなぎ未来を編んでいくこととなります．その一員として学生会に参加した学生各位は酸いも甘いも密度の濃い短期間で経験したことと思います．私は学生会に集った学生各位に心からの敬意を表します．そして，この経験を是非とも後輩となる学生にも薦めて下さい．継続こそ力なり，継続こそ絆なり．学生から社会人へと立場が変化しても，学生会で得た経験は繋がっていきます．変わらないものもあるのです．それを手に入れたことを育てていくことを祈念し，確信して顧問の挨拶とさせていただきます．

特集①

平成 29 年度 東京支部学生会事業紹介

東京支部学生会には 16 校が参加しており、6 つの事業団体に分かれ、役職に就いています。
ここでは、今年度の各事業団体の所属校と、活動について紹介します。

平成29年度 電子情報通信学会東京支部学生会 事業グループリスト



幹事団グループ

活動概要

我々幹事団グループは、各事業グループが円滑に情報共有や話し合いの場を作る事を目的としたグループです。年4回の学生会運営委員会を開き、司会や議事録への記録、新しい制度や活動方針の決定などを執り行っています。

活動内容

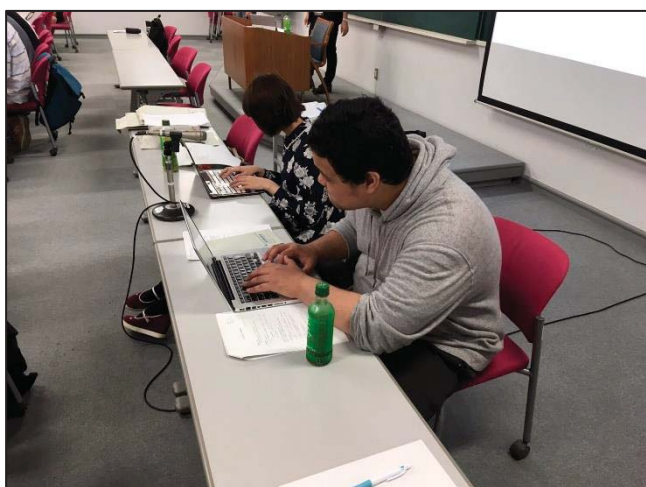
- 学生会運営委員会の概要
会場: 機械振興会館
日程: 第1回(6月頃), 第2回(9月頃),
第3回(12月頃), 第4回(2月頃)
時間: 2時間程度, 委員会後懇親会実施
- 作業内容
 - ・運営委員会の告知
 - ・学生会運営委員会の出欠管理
 - ・運営委員会の司会進行
 - ・議事録の作成
 - ・交通費の精算
 - ・学生会勧誘ポスターの制作



幹事団メンバーの集合写真



学生会勧誘ポスター



学生会運営委員会での取りまとめの様子

メンバー

幹事校: 拓殖大学

服部, 杉田, 上田, 樋熊, 平田, 細井, 後藤
木村, 島田

副幹事校: 東京都立産業技術高等専門学校

松村, 福岡, 秋山, 大澤, 中野

(文責: 拓殖大学 杉田)

学生会報グループ

活動紹介

我々、学生会報グループでは電子情報通信学会において、学生員の活動を盛んにし、親睦を深めることを目的として学生会報誌を毎年度末に発行しております。今年度で、学生会報誌も第 23 号となりました。

学生会には様々な事業グループが存在しており、それぞれが研究発表会や講演会、見学会といったイベントの企画・実施を活発に行っております。学生会報誌では、精力的に活動を行う事業グループを紹介する記事を掲載しております。また各事業グループの紹介とは別に、特集記事も掲載しております。事業グループの紹介記事だけでなく、特集記事もぜひ読んでいただければと思います。

学生会報誌を通じて学生の皆さんに学生会の存在および活動内容を知っていただくことで、学生会に興味を持っていただき、学生会に参加したいという方が増えていただけることが編集している我々にとっての励みとなります。学生会報誌が学生の輪をつなぐことで、電子情報通信学会における学生会の活動、親睦がより盛んになることを目指し、今後も我々、学生会報グループは学生会報誌を発行し、学生会の活動を広報していきたいと思っております。



今年度の特集記事について

本誌における特集記事は学生を対象とした就職活動についてのアンケート結果となっております。就職活動に関する様々な質問を学生にアンケートし、それらに対する回答を紹介しております。学生会の学生がどのような職種を希望しているのか、インターンシップへの参加頻度、また就職活動におけるアドバイスなどを読んでいただき、学生の皆さんが就職活動をするうえで参考にさせていただけたら幸いです。

メンバー

幹事校： 日本大学

阿部 水樹, 田中 大介, 田中 泰介,
内海 裕人, 戸泉 孝太

副幹事校： 神奈川工科大学

檜原 裕一郎, 杉山 友記

サポート校：横浜国立大学

佐久間 義友, 野井 優希, 大西 燿



(文責：横浜国立大学 佐久間)

見学会グループ

活動概要

見学会グループは、情報通信社会における最先端技術に関して研究開発の場において直接学ぶ事を通じて、学生間の親睦を深める事を目的に活動しています。各企業の方々のご厚意の下、IEICE 会員、学生会員及び一般学生向けに見学会を開催しています。

今年度の実施内容

見学先 : 防衛省 防衛装備庁
電子装備研究所 (東京都世田谷区)

日 程 : 平成 29 年 8 月 7 日 (月)

見学時間 : 13 : 00 ~ 16 : 30

見学内容

1. 電子装備研究所 総合説明
2. 各研究部における事業及び研究説明
3. 電波暗室見学
4. 各研究室見学
 - ① センサ研究部
(将来レーダ MIMO Radar の紹介)
 - ② 電子対処研究部
(高出力レーザシステムの紹介と実演)
5. 資料室見学 (過去研究品の解説)
6. 質疑応答



所 感

見学会当日は 6 大学 44 名 (IEICE 会員 29 名、非会員 15 名) の参加を頂きました。IEICE 会員のみならず幅広い方々にご参加頂きました。

見学会においては、通常時の一般公開では説明されない、より踏み込んだ内容の研究紹介をして頂き、国家の最先端の電子情報技術の開発現場を見学する事ができました。

事後アンケートにおいては、「普段見学できない所が見学でき、とても勉強になった」等のご感想を頂きました。多くの方が最先端技術とその研究現場への興味関心を深められました。

最後に、ご多忙の中、快く開催をお引き受け頂きました防衛省 防衛装備庁 電子装備研究所の皆様、及び開催にご尽力頂きました防衛省 東京地方協力本部の皆様にご心より感謝致します。

メンバー

幹事校 : 防衛大学校
後藤 和正, 奥田 和也
福田 翔太郎, 大川 小鉄

副幹事校 : 早稲田大学
山岡 雪乃, 萩原 涼太

サポート校 : 群馬大学
真鍋 敦, 千装 尊仁
(文責 : 防衛大学校 奥田)

講演会グループ

活動概要

我々講演会グループは、学生会の主旨である電子情報通信学会学生員の活動を盛んにし、かつ学生員相互の親睦をはかることを目的に、講演会の開催を通してこれを達成するための活動を行う。



質疑応答の様子

また、海外と日本のセキュリティの比較からセキュリティの多様性や犯罪傾向の違いを感じました。普段の大学内では聞けない刺激的な体験で、ぜひ他の生徒にも聞いてほしいすばらしい講演内容でした。

最後となりましたが、ご多忙の中、貴重なご講演をして頂きました原口兼正様に深く御礼申し上げます。

今年度の実施内容

題目：時代とともに変化するセキュリティ

講演者：原口 兼正 氏

(元セコム株式会社代表取締役社長、東京都市大学客員教授)

日時：平成 29 年 11 月 11 日 (土) 13:30～

会場：明治大学 駿河台キャンパス アカデミー
コモン 8F308F 教室

感想

今年度は参加者が 39 名と例年よりも多く見受けられました。原口様のご経験を踏まえたお話はわかりやすく、また興味の持ちやすいテーマで、皆聞き入っているようでした。特に、様々な観点からのセキュリティの歴史に関するお話は、非常に感慨深く感じました。



原口様ご講演の様子

メンバー

幹事校：明治大学

傳田 渉、白木 智之、小坂 達也、志塚 雅明、
長田 謙志郎、石井 君季

副幹事校：東京都市大学

永野 智彦、橋本 大、小田中 啓、中村 啓太、
中村 哲也、大畑 遼汰、松岡 慎治



集合写真

(文責：明治大学 小坂)

研究発表会グループ

活動概要

本グループは、毎年2月末～3月上旬頃に、電子情報分野を専攻している学生を中心に募った研究発表会を企画・運営しています。

我々は、この研究発表会を通して、参加した学生の皆様が、他校の学生や教授および企業で活躍されている方々との交流により学術的な見識を深める場を設けたいと考えております。

活動の様子

研究発表会への準備は年に4回行われる東京支部学生会運営委員会にて行われます。決定事項の共有や運営に関する話し合い、次回の運営委員会にむけたタスクの確認など研究発表会の成功に向け取り組んでいます。運営委員会の後には学生会東京支部全体での懇親会があり、研究発表会グループ内だけでなく他グループのメンバーとの交流を深めています。



運営委員会の他にも研究発表会に向けた取り組みがあります。1つは研究発表会会場下見です。下見では実際に使う教室を見学し、機材の使用方の確認や机の配置について検討しました。

そして、研究発表会前の最大の山場といえるのがプログラム編成委員会です。皆様から頂いた予稿を元に当日の発表の順番や会場を決めて行きます。複雑で難しい作業ですが自分たちの力で学会を作り上げてゆくのはやりがいと達成感があります。今年も研究発表会グループ一団力を合わせて頑張りたいと思います。

プログラム編成委員会を終えたら残すは前日準備と研究発表会当日のみです。当日は東京支部の他グループのメンバーにも手伝ってもらい運営を行います。1年の集大成として皆様により良い発表と活発な議論を提供できるような場を準備できれば幸いです。



今年度の研究発表会の概要

今年度は、以下の内容で、第23回研究発表会を開催する予定です。

開催日 : 平成30年3月3日(土)

会場 : 東海大学 高輪キャンパス

特別講演 : 安彦 剛志 氏

講演内容 : 聖地巡礼とコンテンツツーリズム

(文責 : 上智大学 石田)

SCI グループ

活動概要

SCI (Student Community of IEICE) は学生相互の理解を深めることを目的として設立された事業グループです。「交流促進事業」「広報事業」「他グループ支援事業」3つの事業を主な柱として活動を行っています。

交流促進事業： 他支部との交流を深めるためのイベント開催・親睦会の実施

広報事業： 学生会 HP の更新, 学生会 SNS(Twitter, Facebook)の更新

支援事業： 見学会, 講演会, 研究発表会グループ等の広報 HP 制作・公開

本年度は以上の活動に加え, 学生会ホームページのリニューアルを主に取り組んでいます。SNSとの連携強化・スマートフォン対応等によって, より見やすく, 学生会活動に興味を持ってもらえるような HP を目標に制作しています。新 HP は 2018 年 3 月に公開予定です。



リニューアル後の学生会ホームページ

今後は, 他支部との交流を深めるべく同じ目的を有している東北支部の東北大学学生ランチの皆様と連絡を取り, 総合大会に向けて全国の支部を巻き込んだイベントを共催することを主に取り組んでいます。このイベントを契機に東北支部以外の支部とも交流を深め, より全国的に学生会活動をしていく予定です。

メンバー

幹事校 : 東京工科大学

倉持 春聖

副幹事校 : 東海大学

大前 寛尚, 大山 晃平

木田 行彦, 平本 和己

千葉 恵, チョン・ホーリヤン



SCI メンバー集合写真

(文責 : 東海大学 大前)

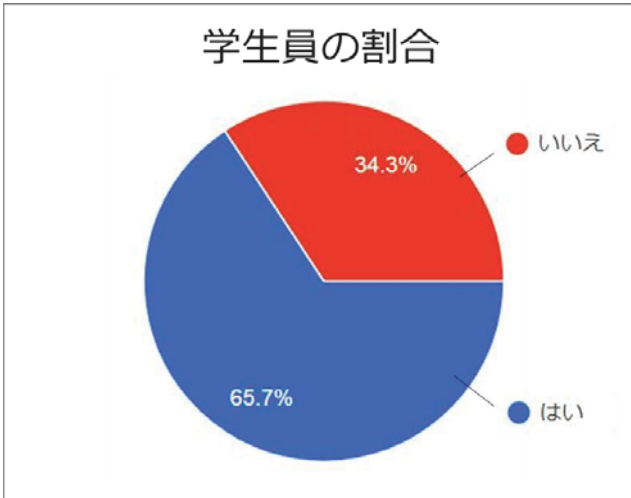
特集②

東京支部

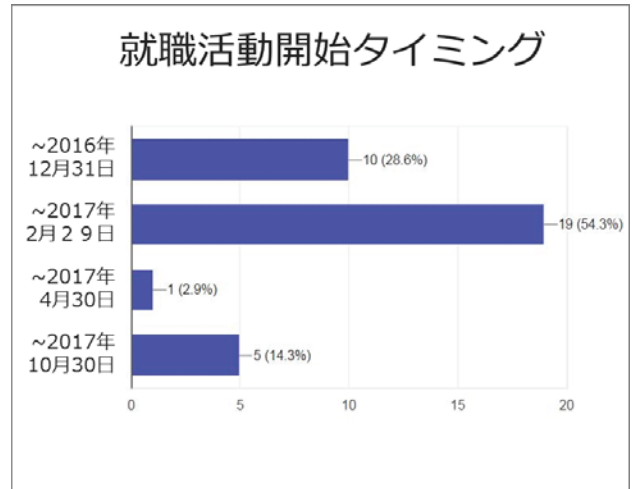
学生就職活動記

就職活動を終えた学生を対象にアンケートを実施しました。
本特集記事ではそのアンケート結果を記載しております。
来年度の就職活動を迎える方の参考になれば幸いです。

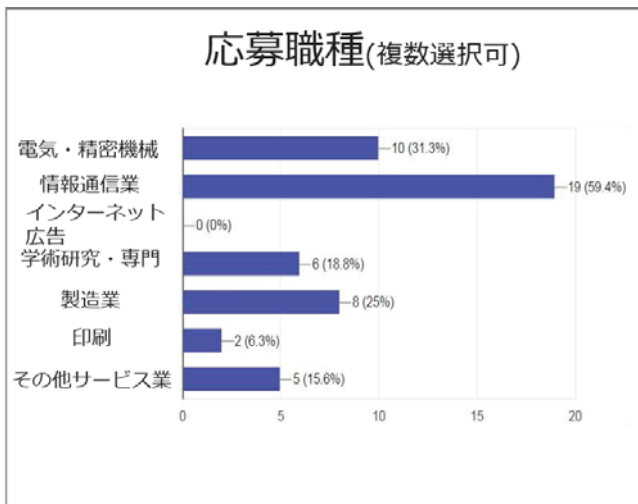
就活アンケート結果



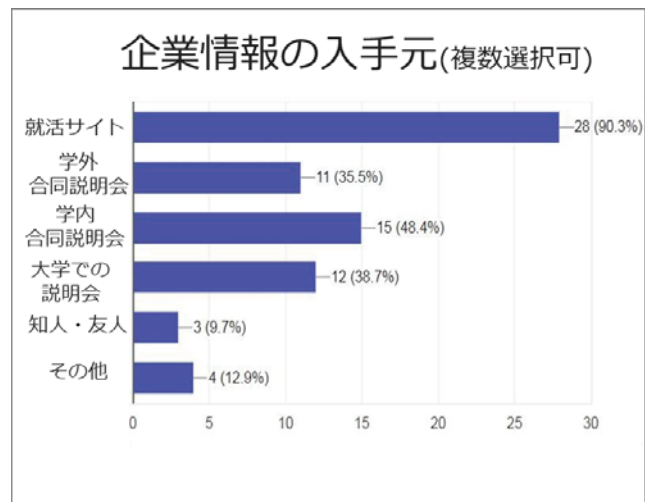
本アンケートは学生会を中心とした学生の方々に協力して頂きました。その中で、65.7%が電子情報通信学会の学生員でした。男女比は男性が77.1%，女性が22.9%で，大学生が54.3%，大学院生が45.7%でした。



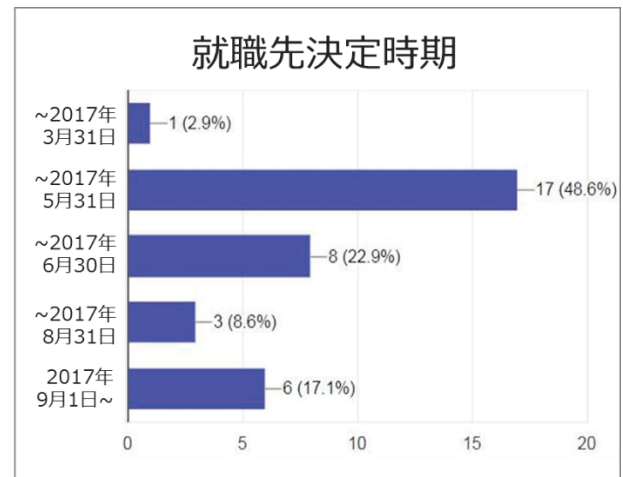
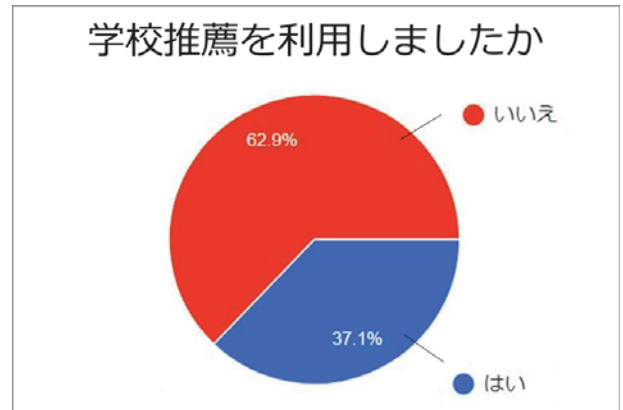
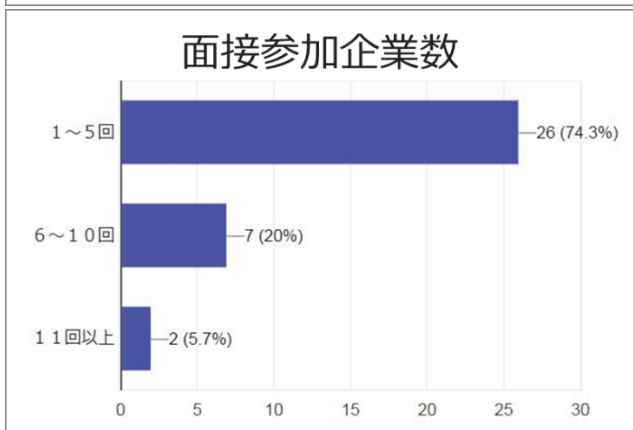
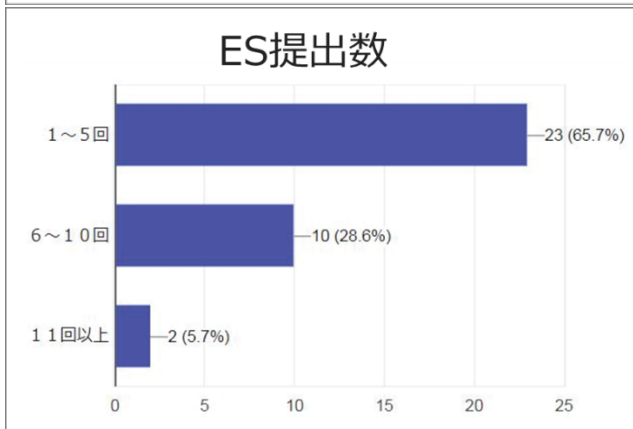
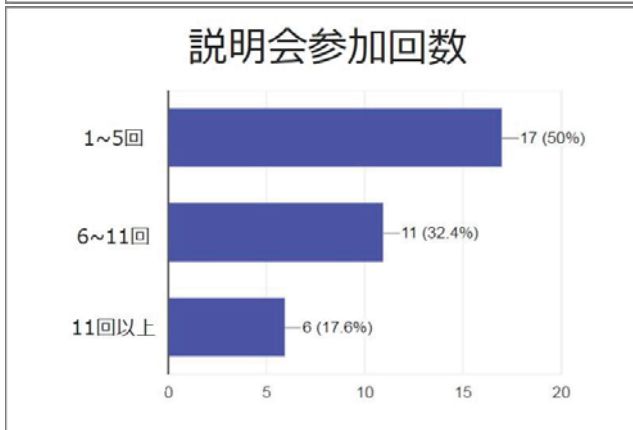
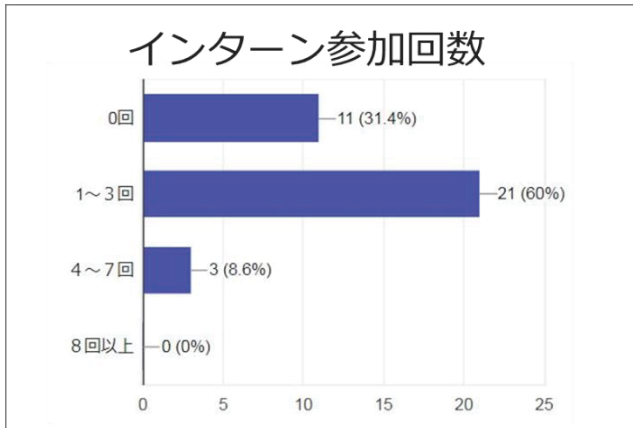
就職活動開始時期は3月の情報解禁に合わせて、その少し前から活動を始めの人が半数以上を占めていました。次に30%弱の方が、2016年頃から活動されていました。事前に夏期や冬期のインターンシップや、就活セミナーに参加された方が多かったようです。



電子情報通信学会に所属している学生の方々を中心にアンケートを収集したため、やはり約半数が情報通信業、いわゆるSE系を応募されたようです。その次に電気・精密機械系の職種、第三位には製造業が占めており、いわゆるメーカー系が人気のようです。



ここ数年の主流で、やはり就活サイトを主な情報収集に用いている学生が9割を占めていました。ただ、並行して学内・学外の合同説明会や、大学での説明会での情報収集を行っている方も多くいました。知人や友人などの個人から情報収集を行っている方は少ないようです。

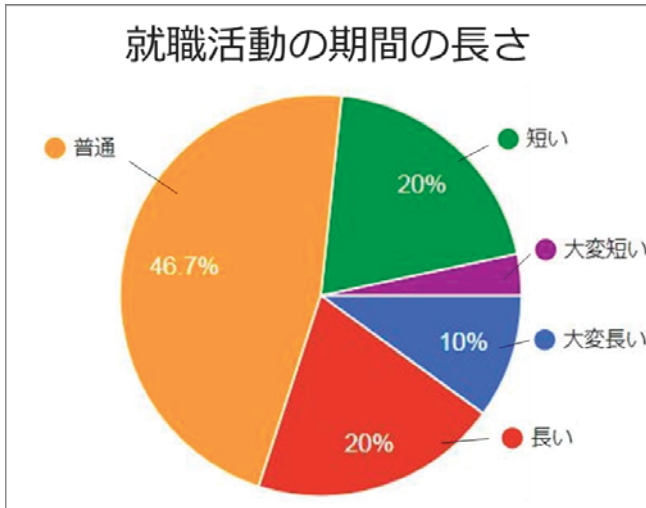


インターンに行った回数，説明会参加回数，ES提出数，面接参加企業数，学校推薦の使用の有無はご覧の図のようになりました。

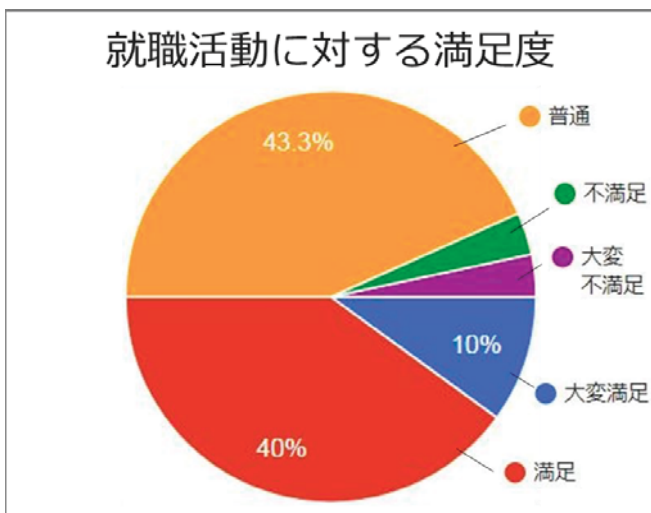
約 70%の人がインターンに参加されたようです。就活開始時期に対して，インターン参加割合が多いのは，短期のインターンを活用した方が多いようです。説明会に参加した回数及び ES を提出した回数は 1~5 回が最も多く，学生の方々が数社に絞って選考を進めていた事が伺えます。また，実際に面接に参加した企業数も約 75%の方が 1~5 社という結果でした。学校推薦は 37%の人が使用した結果となりました。就職先の決定時期は 5 月までに決定していた方が約半数を占めていました。トータルで考えると，早い時期に就活サイトなどで多くの情報を集め，説明会を通して選考を進める会社を数社に絞った方が多い印象です。数社の選考活動に集中することで早い段階で希望の会社に決めることができたのだと思います。

以降は、記述による回答をいただいたアンケートの結果をいくつか紹介させていただきます。

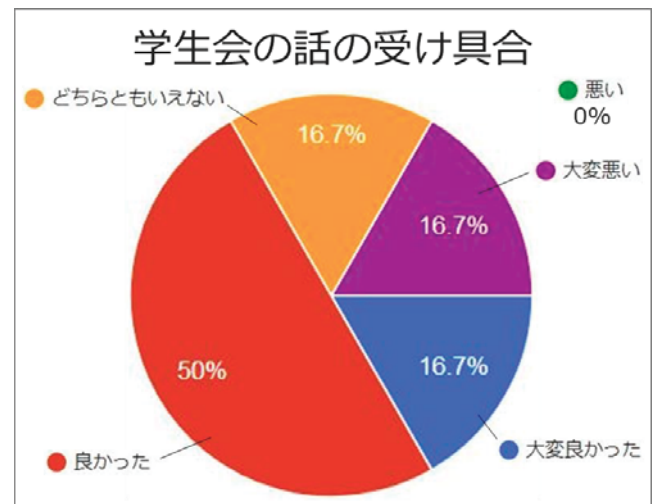
- ・ **大学院生の方に質問です。学部卒業時に就職活動を行いましたか？ また、最終的に進学を決めた理由について教えてください。**
 - ・ 自分は学部卒業時には就職活動はしませんでした。大学院進学を決めた理由は、学部以上の専門的な知識を身に付けたいと思ったからです。
 - ・ 学部時代は公務員の技術職を志望して就職活動を少し行った。進学を決めた理由は先生から勧められたから。
 - ・ **就職活動に入る前に何か特別な取り組みをしましたか？**
 - ・ 企業のOBの方に面接練習をしていただきました。
 - ・ ボランティア活動を行った。例えば、マラソンの給水係など
 - ・ 夏のインターン
 - ・ 学内で開催されたマナー講座に参加した。
 - ・ 自分がやりたいことを明確にした。
 - ・ **就職活動を終えて、大切だと感じたことは何ですか？**
 - ・ 自分自身を見つめなおすこと
 - ・ 度胸，準備
 - ・ 企業の方の話を聞いた後に、自分でよく考えて決めること。
 - ・ 応募する会社を好きになるまで調べること。
 - ・ 体力
 - ・ 自己分析。強みと弱みを、エピソードを踏まえて論理的に話すこと。
 - ・ コミュニケーション能力と専門分野の基礎的な知識
 - ・ 自己分析，業界分析，企業分析
 - ・ **後輩にアドバイスしたいことを記入してください**
 - ・ 院卒をするなら学部で就職活動を行うと良い経験になると思っています。
 - ・ 早めの行動を心がけてください。
 - ・ 面接は何度か経験するとコツがつかめる。
 - ・ IR 情報をとにかくよく読む。あとは、日本経済新聞の電子版等を用いて情報收拾を日頃から行うと良い。
 - ・ 思っている以上に企業のことを知らないのので、就職活動が本格的に始まる前から少しずつ世の中にある企業のことを知っておくといと思います。
 - ・ **特に印象に残っている面接内容があれば教えてください**
 - ・ 君はこの業界に向いていない。面接での何故の繰り返し。
 - ・ 無茶振りされたのはきつかったわ～
 - ・ 成果物をアピールする面接がありました。
 - ・ あなたにとってお父さんはどんな人？
 - ・ **就職活動中、何を軸にして取り組みましたか？**
 - ・ 職種，福利厚生
 - ・ 企業理念
 - ・ (1)人(2)技術(3)グローバルの3点を軸に置いた。
 - (1)同期と切磋琢磨しあえたり尊敬できる先輩がいるか
 - (2)技術の発展性はあるか
 - (3)多様性・スピード感を大事にしているかを企業毎に見た。
 - ・ 大学で学んだことが活かせる企業かどうか。
- 以上が記述にて回答していただいた結果です。最後に総合的なアンケートを5段階でご回答いただいたのでそちらの結果をご紹介します。



期間の長さに関しては、「普通」と答えた人が約半数を占めました。すぐに希望の内定を頂けた方や、苦労した方など、具体的な活動期間は個人で異なりますが、約半数の方が活動時期の長さに関して納得しているようです。



雇用状況が徐々に改善されているのか、今年の満足度に対するアンケートは約 43%の方が「普通」と回答し、約半数の方が「満足」、「大変満足」と回答していました。多くの方々が就職活動の内容にも納得していることが伺えます。



実際に、面接などで学生会の話をした方は 6 名と少なかったのですが、まとめさせて頂きました。やはり、学生が主体となって活動を行っているという点が評価されているのか、約 67%の方が「良かった」「大変良かった」と回答していました。しかし、面接官の表情はこちらから伺うことが難しいことも多いため、「大変悪い」と回答した方もいらっしゃいました。

総評

「学生就職活動記」として特集記事を組ませて頂きました。本テーマは一昨年、昨年と三年に渡って特集させて頂いています。ここ数年で学生の就職状況は大きく変化しております。その要因は就職の情報解禁時期の変更や、雇用状況の変化などがあります。これに対して、通年で学生の方々の意見をピックアップすることで、これまでの、そしてこれからの就職活動を取り巻く環境の変化を読み取ることができるのではないかと考え、今年も継続して「学生就職活動記」を組ませていただきました。三年間を通して、学生の就職活動内容は徐々に満足の行くモノに変化しているように感じます。これから挑戦する学生の皆様には悲観的にならず、是非、理想の会社に挑戦して頂きたいです。

最後になりましたが、特集記事を読んでいただきありがとうございました。この記事が有益な情報になれば幸いです。(文責:阿部)

沿革

本会の起源は、1911年に誕生した通信省電気試験所第2部第2研究会を前身としております。1917年5月1日に「電信電話学会」として正式に発足し、急速な発展をとげてきた電子情報通信分野の学術の発展、産業の振興に指導的役割を果たしながら、2017年5月に創立100周年を迎えることができました。

社団法人として認可されたのは1927年1月です。1937年には「電気通信学会」と改称し、その後も学会の担当する分野の拡大に伴って、1967年5月に「電子通信学会」、1987年1月に「電子情報通信学会」と改称しました。2012年4月1日からは、新たな法律の下に一般社団法人となり、現在にいたっております。

1995年4月からは、関連する学問分野の広がりに応じて、研究専門分野ごとにそれぞれ特色ある独自の活動を可能とするため、ソサイエティ制を導入しました。現在、基礎・境界ソサイエティ、NOLTAソサイエティ、通信ソサイエティ、エレクトロニクスソサイエティ、情報・システムソサイエティとヒューマンコミュニケーショングループがあります。これらソサイエティとグループの下に研究専門委員会が組織され、それぞれ自主的に企画し、該当する分野の84もの研究会が活発に開催されています。研究会で扱われる情報は極めて新鮮で速報性が高いという観点から、有用性において高く評価されています。1年間に報告される件数は約9,000件にのぼります。

また、本会では電子情報通信学会誌、和英論文誌、オンラインジャーナル、各ソサイエティが発行するニューズレターやマガジン、単行本、ハンドブックなど多くの出版物を発行しております。イベントとしては、春と秋に大会を開催し、最先端の技術分野に関する「総合的な」知識・情報が得られる機会を会員の方に提供しております。

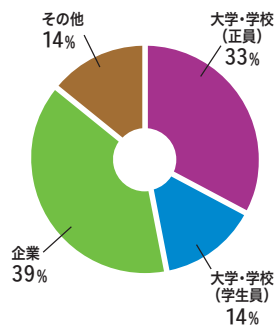
電子情報通信学会では、学会の本来の役割である、学術論文の出版、国際会議や研究会等の主催・共催などの学術の発展を支える活動とともに、国民生活に必要な不可欠となった情報通信技術の魅力を伝える啓発活動や今後のこの分野の研究開発のあり方に関する提言等にも積極的に取り組んでいます。

会員構成

会員種別及び会員数

個人会員	名誉員	94
	正員	24,722
	学生員	4,517
個人会員合計		29,333
法人会員	維持員	124
	特殊員	294
法人会員合計		418

国内会員所属割合



ソサイエティ・グループ

基礎・境界	http://www.ieice.org/ess/ESS/index-j.html
NOLTA	http://www.ieice.org/nolta/index.html
通信	http://www.ieice.org/cs/jpn/
エレクトロニクス	http://www.ieice.org/es/jpn/
情報・システム	http://www.ieice.org/iss/jpn/
ヒューマンコミュニケーショングループ	http://www.hcg-ieice.org/

支部

北海道支部	東海支部	中国支部
東北支部	北陸支部	四国支部
東京支部	関西支部	九州支部
信越支部		



電子情報通信学会

100年史

本学会創立以来の組織構成や主な活動の変遷、目覚ましい発展を遂げた100年間の電子・情報・通信技術の歩みを顧み、同時に将来展望を3部構成でまとめました。特に第2部、第3部では、大学生でも常識として知っているべき技術史を中心として、本学会の創立から100年間分の関連技術の客観的な発展の歴史に加え、明るい未来につなげていくための展望が含まれています。

電子情報通信学会 マイルストーン

電子情報通信学会マイルストーンは、2017年に100周年を迎えた節目を記念し、当会で議論され、我々の社会や生活、産業、科学技術の発展に大きな影響を与えた研究開発の偉業を選定した事業です。

入会のご案内

電子情報通信学会では活動趣旨にご賛同頂ける方の御入会を随時受け付けております。入会頂くと、様々な特典・優待が受けられるほか、論文投稿や各種イベントへの活動などを通して、電子情報通信に関する最新情報へのアクセスが可能となります。

WEB <https://www.ieice.org/>

mail kaiin@ieice.org TEL 03-3433-6691

会員種別	入会金	年会費	追加 ソサイエティ代
正員	2,600円*	13,000円	3,500円
学生員	0円	4,500円	2,000円

*入会金…関連学会(電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会、大韓電子工学会、IEEE)にすでにご在籍の方は、所定の手続きをお取り頂くと本会入会金が免除となります。

入会フロー

1 WEBからお申込み

WEB
(<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>)
から入会登録を行ってください。
入会申請には、正員1名の推薦が必要です。

2 入会金・年会費の お支払い

登録完了後にメールが送信されます。メール内に仮会員番号及び請求金額等が記載してございますので、速やかに入会金、年会費のお支払いをお願いします。銀行振込、クレジットカード決済にてお支払い頂けます。

3 入会決定

毎月1日締切で入会金・年会費のご入金を確認できたものが理事会に諮られます。理事会承認後、入会月の前月末までに入会承認通知(会員証)が郵送されます。

4 会員サービス利用開始

入会月から会誌及びTransaction Onlineの閲覧、御自身の登録状況を確認及び各種申請をすることができる「マイページ」の御利用が可能となります。

特典・ 優待

- ホテル、レンタカー、旅行などの優待割引サービス
- 研究会、講演会、講習会、見学会等への参加
- 会員価格で大会での発表
- 論文の投稿
- 学生員の大会聴講参加費が無料(DVDは別)
- 基本会費での学会誌とオンラインジャーナル(登録ソサイエティの和・英両論文誌)が閲覧及びソサイエティ発行のニューズレターの入手
- 総合大会チュートリアル講演ビデオアーカイブの閲覧
- 学生員(学士、修士)から正員へ昇格時に、正員2年間分の会費半額免除(事務局で対応)



電子情報通信学会

事務局 TEL 03-3433-6691 …ガイダンス番号 ■ 会員課[1] ■ 研究会課[2] ■ 大会課[3] ■ 総務部[4]

出版事業部 TEL 03-3433-6692

編集後記

東京支部学生会 学生会報 第 23 号はいかがでしたでしょうか。今年度も特集記事のページにて、各事業団の紹介と学生員の就職活動をテーマに据えて作成しました。学生会でそれぞれの事業部がどのようなことをしているのか、他の大学の人たちがどのように就職活動を行っているのかをお伝えできたのであれば幸いです。またこの会報誌を読み、学生会の活動に興味を持っていただけたなら、是非参加して頂きたいと思っております。2 つ目の特集記事「学生就職活動記」に関しましては、この会報誌を読んでもくださった学生の方に向けて、就職活動に関する有益な情報を提供させて頂きたいとの思いから今年も作成させて頂きました。昨今、就職活動の状況は目まぐるしく変化しております。その中で、実際に就職活動を行った学生会メンバーの意見を見ることは重要だと思います。この特集は 2 年前から組ませて頂いており、過去の特集記事も合わせてご覧頂くと、就職活動を取り巻く状況の変化がわかるのではないのでしょうか。また、この会報は鋭意的に活動をしてきた学生会運営委員の皆様の足跡を記録に残したいと思い作成しました。現在、学生会は 6 つの事業団体に分かれて総勢 78 名の学生が活躍しております。その活動を全てご紹介することは難しいですが、多くの学生が一丸となって考え、協力し、一つのことを成し遂げていることが伝わって頂ければ、この会報誌を作成した私ども学生会報グループの役割は果たせたのではないかと思います。

末筆ながら、本会報を作成するにあたりご協力頂いた皆様へ心より感謝申し上げます。また、学生会運営委員の皆様、学会事務局のご担当者様のご協力のおかげで本会報を作成することができました。ここに感謝の意を表します。誠にありがとうございました。

阿部 水樹



平成 30 年 2 月 23 日発行

編集：阿部 水樹（所属：日本大学）

発行 一般社団法人電子情報通信学会 東京支部学生会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

Tel (03) 3433-6691 Fax (03) 3433-6659

E-mail: shibu@tokyo.ieice.org

<http://www.ieice.org/tokyo/>

